



Title	EX ORIENTE 第28号 奥付
Author(s)	
Citation	EX ORIENTE. 2024, 28
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/95012
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

2023 年度－ 2024 年度大阪大学言語社会学会役員

会 長 代 行	山根 聡（人文学研究科 外国学専攻長）				
代 表 理 事	山根 聡				
学会誌編集長	中田 聡美				
理 事	上原 順一	岡田 友和	北岡 志織	進藤 修一	
	中田 聡美	長谷川信弥	福田 義昭	古谷 大輔	
	宮下 遼	村上 忠良	山根 聡	矢元 貴美	
	渡邊 克昭				
会 計 監 査	竹村 景子	南田みどり			
顧 問	赤木 攻				

（2024 年 3 月 31 日現在）

大阪大学言語社会学会会則

第1条 本学会は、大阪大学言語社会学会と称する。

第2条 本学会は、世界の言語とそれを基底とする社会・文化一般の総合的な学術研究を振興することを目的とする。

第3条 本学会は、次の事業を行う。

1. 研究会、講演会の開催
2. 学術雑誌の発行
3. 学術書の出版補助
4. その他目的達成に必要な事業

第4条 本学会の会員は次の通りとする。

1. 正会員 大阪大学の教員（専任・非常勤）ならびに本学会の趣旨に賛同する者で所定の会費を納めた者
2. 大学院生会員 大阪大学の大学院生で所定の会費を納めた者
3. 学生会員 大阪大学の学部学生で所定の会費を納めた者
4. 賛助会員 本学会の趣旨に賛同し、所定の会費を納めた者

第5条 本学会への入会は、所定の入会申込書を提出し、理事会の承認を受けなければならない。

第6条 本学会に次の役員をおく。

1. 会 長 1名
2. 代表理事 1名
3. 理 事 20名以内
4. 会計監査 3名
5. 顧 問 若干名

第7条 会長は、本学会を代表する。会長、代表理事、理事は理事会を組織し、本会を運営する。代表理事は会の事業を統括する。会計監査は本会の会計を監査し、総会に報告する。顧問は、本会の事業に適宜助言する。

第8条 理事は総会において正会員の中から選出する。また、会長および代表理事は理事の互選による。会計監査は、総会において選出する。顧問は理事会が委嘱する。

第9条 本学会に総会をおき、正会員をもって構成する。

第10条 会長は理事会の決定に基づいて、毎年1回総会を招集する。

第11条 総会は、出席者の互選によって議長を選出し、次の事項を審議決定する。

1. 学会の運営方針
2. 学会の予算および決算
3. 理事および会計監査の選出
4. 学会会則の改廃
5. その他学会運営にかかわる重要な事項

第12条 理事会は正会員の中から、理事会の業務を補佐するための委員を委嘱することができる。

第13条 役員の任期は2年とする。ただし再任を妨げない。

第14条 本会則は、1997年11月6日より発行する。

（2007年7月26日 第11回総会で一部改定）

大阪大学言語社会学会細則

第1条 研究活動

1. 研究大会を毎年1回開催する。
2. 定期的に研究例会を開催する。
3. 学術講演会を共催、後援する。

第2条 出版活動

1. 学会の機関誌を発行する。
2. ニュースレターを発行する。
3. 研究会の報告集を発行する。
4. その他学会の目的に資する出版物を刊行する。

第3条 学術書の出版

会員の学術成果の発表を促進するため、学術書を出版する。

第4条 代表理事はその下に事務局を置き、委嘱した委員とともに各委員会を組織して学会の業務を行う。

第5条 本学会費は次の通りとする。

1. 正会員 年 5,000 円
2. 大学院生会員 年 3,000 円。ただし新入生は入学時に博士前期課程の場合は 6,000 円、博士後期課程の場合は 9,000 円を在学期間の会費として納入する。
3. 学生会員 年 2,500 円。ただし新入生は入会時に 10,000 円を在学期間の会費として納入する。
4. 賛助会員 年 1 口以上（1 口 1 万円）

第6条 退会を希望する会員は、所定の退会届を提出し、理事会の承認を受けなければならない。ただし大学院生会員および学生会員は、学籍を失った時点で会員資格を失う。また3年以上会費を滞納した会員は、本学会を退会したものとみなすことができる。

大阪大学言語社会学会学術雑誌投稿要綱

1. 資 格

投稿者は、原則として、大阪大学言語社会学会の会員に限る。

2. 使用言語

原則として日本語とし、その他の言語の場合には、編集委員会で協議する。

3. 投稿原稿の審査

投稿原稿は「原稿審査規程」に従い、編集委員会の責任において審査を行い、採否を決定する。

4. その他

1) 先行研究や図表の引用・再掲については、法律および社会的な通念に従うものとし、許可が必要な場合には、執筆者の責任で処理するものとする。

2) 本雑誌に発表した論文を他に転載する場合には、編集委員会の許可を得るものとする。

3) 審査の上掲載された論文であっても、表明された見解については、執筆者が責任を負うものとし、大阪大学言語社会学会および編集委員会は、何らの責任も負わない。

5. 本要綱は、1998年1月22日より施行するものとする。

大阪大学言語社会学会学術雑誌審査規定

1. 大阪大学言語社会学会の発行する学術雑誌に掲載する論文は、原則として本規程による審査を経て、掲載の採否を決定する。

2. 本審査が対象とする論文は、「投稿要綱」および「執筆要領」の定めるところに従ったものでなければならない。

3. 編集委員会は、投稿された原稿ごとに、当該分野および関連分野より2名の査読委員を定め、査読を委嘱する。その際、必要に応じて会員以外の研究者に査読を委嘱することができる。

4. 査読委員の氏名は、これを公表しない。

5. 査読委員は、新知見の有無、論述内容や論述形式の妥当性、当該分野における研究への貢献等の審査基準に照らして、論文を審査し、その結果を次に定めるABCD4段階に評価した上で、編集委員会に報告する。

A（そのまま掲載可）、B（一部補筆を求めた上で掲載する）、C（書き直しを求めた上で再査読する）、D（不採用）。

6. 編集委員会は、査読委員からの報告に基づき原稿の採否を決定し、その結果を遅滞なく執筆者に通知する。

7. 査読委員からの報告がC（再査読）の場合、編集委員会は執筆者に原稿の修正を求め、修正された原稿が提出されれば、再査読を委嘱する。

8. 編集委員会の決定を執筆者が不当とする場合、執筆者は編集委員会に不当とする理由を書面で提出し、再審査を請求することができる。

9. 本規程は、1998年1月22日より施行するものとする。

大阪大学言語社会学会学術雑誌執筆要領

1. 原稿の分量

- 1) 投稿論文は、四百字詰め原稿用紙換算で原則として 50 枚以内、最大限 70 枚を超えないものとし、書評・研究ノートは 40 枚以内とします。
- 2) 編集委員会の企画による特集論文も、原則としてこれに準じます。

2. 原稿の提出先

- 1) 原稿は、編集委員会において定める各号の締め切り期日までに下記編集委員会宛に提出して下さい。

〒 562-8558

大阪府箕面市栗生間谷東 8 丁目 1 番 1 号

大阪大学言語社会学会編集委員会

- 2) 原稿の採否にかかわらず、一度投稿された原稿（テキストデータ含む）の撤回ないし返却には応じられません。

3. 原稿の形式

- 1) ワードプロソフトで作成したテキストデータに限ります。

テキストデータは、日本語の場合には、原則として 1 行 40 字 1 ページ 40 行横書きとし、日本語以外の場合も、できるだけこれに準じた形式に設定して下さい。

また日本語・英語以外の場合には、使用したパソコンのソフト名をお知らせ下さい。

提出の際には、テキストデータとともに、上記の形式で A4 用紙にプリントアウトしたものを 3 部提出して下さい。印字不可能な文字・記号（傍点・ルビ・イタリックなど）を使用する場合には、印刷原稿に朱書きで明示して下さい。

2) 執筆者情報

別紙に執筆者の氏名、ふりがな、住所、電話番号、所属（大学、学科、講座、大学院生の場合には専攻）、使用言語を明記して下さい。氏名と所属は、使用言語とサマリー言語の 2 言語で表記して下さい。

3) 図表

図表は、原則として執筆者が図像データを用意して提出して下さい。用紙に図表の位置を明示するとともに、図表のタイトル、注記、出典等を記して下さい。また、図像データを使用する際には、原稿全体の字数にご留意下さい。

4. 論文の構成

- 1) 章、節、見出し、引用・参考文献・注記の表記法は、原則として編集委員会の定めるガイドラインに従って下さい。
- 2) 編集委員会の責任において、送りがななど体裁の統一のための修正をお願いすることがあります。
- 3) 論文の場合、執筆した言語以外の言語により 500 語（日本語の場合には 1000 字）程度の要約を添付して下さい。

5. 校 正

- 1) 執筆者による校正は原則として 2 校までとします。
- 2) 論旨にかかわらない字句および体裁については、編集委員会の責任で修正を行うことがあります。

ます。

6. 著作権および電子化に際しての著作権上の許諾

本誌に掲載される原稿の著作権は執筆者にあるものとします。ただし、投稿にあたり執筆者は本学会に対し、当該論文の電子化に際しての公開・一般利用者の閲覧・ダウンロードについて著作権（複製権・公衆送信権）上の許諾を与えるものとします。なお、執筆者が当該論文を他に転載する場合には、事前に書面で編集委員会に通知を義務づけます。

7. その他

- 1) 投稿原稿の審査で再査読の必要がある場合には、次号送りとなる場合があります。

(2013 年 12 月 20 日編集委員会決定)

注記など表記法のガイドライン

体裁の統一のため、論文の表記法は次に掲げるガイドラインに従って下さい。

1 論文の構成

- (1) 本文をいくつかの節に分け、1. 2. 3. ... のあとに、見出しをつけてください。
- (2) 節を項に細分化する場合には (1) (2) (3) ... のあとに小見出しをつけてください。

2 文体・かなづかいなど

- (1) 原則として当用漢字、現代かなづかいを使用して下さい。
- (2) 送りがなについては、「行う」のようにして、送りすぎないようにして下さい。
- (3) 本文中の年号、月日などは、原則としてアラビア数字を使用してください。年号は原則として西暦を使用して下さい。
- (4) 初出の外国人名、外国の地名は原則としてカタカナ書きのあとに（ ）内に原語もしくはローマ字転写を付して下さい。

3 脚注および文献の指示

- (1) 脚注をつける場合には、本文の末尾にまとめて通し番号をつけ、本文中の脚注を挿入する箇所の右肩に当該の番号を記入して下さい。文献の指示だけの場合には脚注ではなく、次の (2) (3) の方法に従って下さい。
- (2) 本文および脚注で文献を指示する場合には、かぎ括弧 [] を付け、著者名、文献、刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載して下さい。

[丸山 1960: 67-69]

[Clarke 1990: 123]

[丸山 1960: 67-69, Clarke 1990: 123]

ただし同年次刊行物の場合には、アルファベットをつけて区別し、アルファベット順で、下記のように記載して下さい。

[丸山 1961a: 20-22] [丸山 1961b: 45-46]

- (3) 本文および脚注で指示した文献は、原稿の末尾にまとめて、下記の方法で記載して下さい。
 - a. 文献は、著者名のアルファベット順または 50 音順に配列して下さい。
同一著者の文献は、刊行年次の順に配列して下さい。また同一著者同一年次の文献は、文献指示でつけたアルファベットの順に配列して下さい。
 - b. 各文献について、著者名、刊行年、タイトルまたは論題、雑誌名、巻、号、出版社名、出

版地の順にできるだけ詳細に記載して下さい。

欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、イタリック体で記載するか、原稿に下線を引いて下さい。

著者のローマ字人名は、スモールキャピタルとするため、二重下線を引いて下さい。

欧文の論文の場合には、論文の論題にダブル・コーテンション・マーク“ ”を付けて下さい。

日本語の場合には、論文の論題にはかぎ括弧「 」を付け、雑誌名および単行本のタイトルには二重のかぎ括弧『 』を付けて下さい。

雑誌の巻数、号数は、原則としてアラビア数字を使用して下さい。

(例)

●論文の場合

丸山 真男

1947 「福沢諭吉の哲学」『国家学会雑誌』61 (3), 255-256。

Clarke, Peter

1972 “Elecrcal Socilogy of Modern Britain”, History, 57, 31-55.

丸山 真男

1961 「思想史の考え方について——類型、範囲、対象——」武田清子編『思想史の方法と対象』創文社、東京、311-315。

Clarke, Peter

1983 “The Politics of Keynesian Economics”, 1924-1931. in Michael Bentley and John Stevenson (eds.), High and Low Politics in Modern Britain, Clarendon Press, Oxford, 152-181.

●単行本の場合

丸山 真男

1992 『忠誠と反逆——形期日本の精神史的位相——』筑摩書房、東京。

Clarke, Peter

1996 Hope and Glory: Britain 1900-1990, Allen Lane The Penguin Press, London.

(1998年5月7日編集委員会決定)

編集後記

皆様のお手元に学会誌の最新号をお届けいたします。今回の特集は「阪大ふくふくセンターの使命と可能性」と題して、阪大ふくふくセンター（大阪大学大学院人文学研究科附属複言語・複文化共存社会研究センター）の竹村景子先生（センター長）、矢元貴美先生、近藤美佳先生、櫻井千穂先生に特集への寄稿をお願いいたしました。2023年4月に阪大ふくふくセンターが設立され、もうすぐ1年が経とうとしております。特集を通じて、阪大ふくふくセンター設立の背景や経緯、またセンターが取り組んできた活動をひろく紹介し、外国にルーツを持つ子どもたちへの教育について、より多くの方が関心を持ち、考えるきっかけになればと願っております。(S.N)

大阪大学言語社会学会学術雑誌編集委員会

編集委員長 中田 聡美

編集委員	上原 順一	岡田 友和	北岡 志織	進藤 修一
	長谷川信弥	福田 義昭	古谷 大輔	宮下 遼
	村上 忠良	山根 聡	矢元 貴美	渡邊 克昭

(2024年3月31日現在)

執筆者一覧（掲載順）

竹 村 景 子	大阪大学大学院人文学研究科外国学専攻教授・外国語学部長
矢 元 貴 美	大阪大学大学院人文学研究科外国学専攻准教授
近 藤 美 佳	大阪大学大学院人文学研究科外国学専攻講師
櫻 井 千 穂	大阪大学大学院人文学研究科日本学専攻准教授
洪 碩	大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻博士後期課程
チャン クォック ヒエップ	大阪大学大学院人文学研究科日本学専攻博士後期課程
中 井 健 太	大阪大学大学院人文学研究科外国学専攻博士前期課程
藤 井 光	東京大学大学院人文社会系研究科准教授

報告者一覧（掲載順）

荒 木 佑 真	大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻博士後期課程
洪 碩	大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻博士後期課程
チャン クォック ヒエップ	大阪大学大学院人文学研究科日本学専攻博士後期課程
中 井 健 太	大阪大学大学院人文学研究科外国学専攻博士前期課程

EX ORIENTE

(えくす・おりえんて)

大阪大学言語社会学会誌

The Journal of the Association for Integrated Studies in Language and Society

Osaka University

[名称由来] 大阪外国語大学創立時の理念であり当時の記章にも刻み込まれた

EX ORIENTE LUX ET PAX に由来する。「平和と文化と光」を東洋

の国日本から全世界に向けて発するとの意味が込められている。

EX ORIENTE Vol.28

《検印省略》

2024 年 3 月 31 日発行

編集・発行 大阪大学言語社会学会

〒562-8678 大阪府箕面市船場東 3-5-10

genshagakkai@lang.osaka-u.ac.jp

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~genshagakkai/>

©Association for Integrated Studies in Language and Society (AISLS) Osaka University, 2024

装丁 上野かおる／印刷 協和印刷株式会社

ISSN 1344-7483

㊞ 〈日本複写権センター委託出版物〉

本書の全部または一部を無断で複写複製（コピー）することは、著作権上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター（03-3401-2382）にご連絡下さい。